

# 営農ウィークリーNEWS

前回に  
引き続き

## トビイロウンカ にご注意下さい!!!



先日、奈良県でトビイロウンカの発生が確認されましたが、5月27日には大阪府でも確認されたとの発表がありました。近隣県でかなりの報告がありますので今後の飛来状況に十分注意し、早め早めの防除対策を行うことが重要です。トビイロウンカは急激に増殖し、坪枯れが1日に50cm~1mの速さで大きくなっていくこともあります。被害が大きくなってからでは、農薬が十分に効かないので発生初期に農薬散布することが大切です。

### ★当JAがオススメする★ トビイロウンカ箱施用剤

#### フィルスロトル 箱粒剤



倍率、散布量(10a)	使用時期	回数
育苗箱1箱当たり50g	(は種時(覆土前)~移植当日)	1回

写真左: 稲株元に発生する  
トビイロウンカ  
写真右: 坪枯れ被害の様子



圃場に入り稲株元にトビイロウンカの発生がないかを特に注意して確認して下さい。

★防除目安: 株当たり成幼虫が5頭以上発生する場合  
→株元に発生したら、以下のような薬剤で直ちに防除して下さい!

### 本田施用剤

箱施用剤の使用有無に関わらず、今後も京都府の予察情報を確認し十分にご注意下さい。株当たり成幼虫が5頭以上発生する場合は右の表を参考に本田施用剤で防除して下さい!

農薬名	倍率、散布量(10a)	使用時期	回数	備考
スタークル顆粒水和剤	3000倍	7日前	3回以内	カメムシ類2000倍
ダントツ水溶剤	4000倍	7日前	3回以内	*
トレポン粉剤DL	3~4kg	7日前	3回以内	*
スタークル粒剤	3kg	7日前	3回以内	*
ダントツ粒剤	3kg	7日前	3回以内	*
スタークル豆つぶ	250~500g	7日前	3回以内	*
ブラシジョーカーフロアブル	1000倍	14日前	2回以内	*、いもち病
ブラシジョーカー粉剤DL	3~4kg	7日前	2回以内	*、いもち病
トレポン乳剤	1000~2000倍	14日前	3回以内	カメムシ類2000倍
キラップ粒剤	3kg	14日前	2回以内	*
パダンパッサ粒剤	3~4kg	30日前	5回以内	

★農薬使用時には、必ずラベル等で登録内容をご確認下さい。

\*カメムシ類との同時防除

### —TAC information— 『トビイロウンカの飛来情報』

令和3年6月2日に京都府農林水産技術センター農林センターからトビイロウンカの飛来情報が発表されました。近隣県ではすでに飛来が確認されており、京都府の調査地点でも飛来している恐れがありますので十分注意が必要です! 詳細は裏ページをご覧ください。



## トビイロウンカの飛来情報 農業技術情報（第2号）

昨年、東海地方以西を中心に多発生し、府内では1,010haで354tの減収被害<sup>注1)</sup>となったトビイロウンカですが、本年は梅雨入りが早く、早い時期から飛来に適した気象条件となっています。株元での増殖を見逃さないよう、ほ場での観察を行い、発生を認めた場合は適切に防除を行ってください。

<sup>注1)</sup> 令和2年産水稻の被害面積及び被害量：農水省統計

### 1 京都府に飛来した可能性がある日

気象データを用いて解析された大気の状態から、京都府に飛来した可能性がある日<sup>注2)</sup>は、5月5、17、18、20、21、28、29、30日です(6月1日現在)。

<sup>注2)</sup> 気象予報データによる飛来予測(JPP-NET)より

### 2 飛来状況

- (1) 大阪府、奈良県、徳島県や静岡県などで昨年よりも早い時期から本虫の誘殺が確認されています。
- (2) 6月1日現在、府内3箇所(京田辺市、亀岡市、京丹後市)の予察灯では、本虫の誘殺を認めていません。なお、令和2年は京田辺市、亀岡市、京丹後市いずれも8月上旬に誘殺を認めています。

### 3 今後の対応

本虫の発生を認めた場合は、出穂期の基幹防除時にトビイロウンカに効果が高い薬剤を選択してください。

### 4 トビイロウンカの生態及び観察のポイント

- (1) 成虫の体長は3.5～5mm、光沢ある黄褐色ないし暗褐色の体色を呈します。
- (2) 日本では越冬せず、梅雨の時期に大陸からの強い風(下層ジェット気流)に乗って日本に飛来します。
- (3) 飛来虫がイネに産卵し、水田内の狭い範囲で世代交代を繰り返して増殖します。
- (4) 成虫には長翅型(羽の長い型、写真1)と短翅型(羽の短い型、写真2)があり、ほ場に飛来する成虫はすべて長翅型で、その後の世代で増殖能力の高い短翅型が出廻ります。

(5) トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、急激に増殖し、坪枯れを生じさせることがあります。特に、収穫期が遅い中晩生品種(ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯)では、被害が拡大することがあるので発生状況に注意してください。

(6) トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に株元に好んで寄生するので重点的に観察することが重要です。

(7) 水田内で、水が溜まりやすい、過繁茂で通風が悪い場所があるときは、そこに生息している可能性が高いので、特に注意して観察してください。

(8) 低湿田、通風不良田、多肥田等では発生しやすいので、特に注意が必要です。



写真1 トビイロウンカ長翅型成虫



写真2 トビイロウンカ短翅型成虫